

# 武蔵野市市民活動推進委員会

## 第1回委員会 議事要旨

日時：平成27年9月8日（火）午後7時から9時

場所：武蔵野市役所812会議室

### 1 開会

#### (1) 委嘱状交付

ー市長より委嘱状交付

#### (2) 市長挨拶

- ・武蔵野市市民活動推進委員会にご出席いただき、また、委嘱についてもご承諾いただき感謝申し上げます。
- ・委員の任期は、平成29年3月までと1年半余り。皆様のご協力をお願いしたい。
- ・「武蔵野市市民活動促進基本計画」（以下、「計画」）は、4年前の東日本大震災の発災直後に策定の議論を開始した。この年の7月には武蔵野プレイスが開館し、市民活動の推進のための拠点がスタートした。計画では、東日本大震災のさまざまな課題も含みながら市民活動の大切さを再認識している。
- ・計画期間の10年間の半ばに到達しようとする時期になった。さまざまな社会状況の変化も見られるので、計画に即した支援ができているか、「連携と協働」という基本的な概念がうまく進んでいるのかなど、これまでを振り返りつつ、一定程度の見直しを議論していただきたい。また、団体に伝わっているのかということも含めて、「連携と協働」のあり方も議論していただきたい。
- ・市民活動に対しては、何らかの市の支援が必要だと考える。財政面や技術的な支援のほか、ネットワークの提案も含めて多様な支援があるのではないかと思う。市民活動のより一層の活性化のために、どのような市民活動あるいは団体に対しての支援が可能なのか、必要なのかということについても積極的にご意見をいただきたい。
- ・行政サービスや市民サービスは、市だけではなく、地域・団体・NPOなどさまざまな、そして多くの方の力がなければ成し得ない状況である。市民活動の重要性や団体の多様な活動を支援していくことの必要性を認識しているので、積極的に議論していただきたい。

#### (3) 委員自己紹介

##### ■委員

- ・勤務する大学では、昨年4月にボランティア支援センターを設立した。現在は少しずつ足固めをしている。ボランティア支援センターに先立ち、学生が「ボランティア本部U

n i」という団体をつくっていた。学生から背中を押されるような形でセンターが立ち上がったという珍しいケースである。それを大変誇りにも思っている。地域の方と連携して協働してやっていけるようにということで、少しずつ活動している。

- ・東北地方にも、スタディーツアーを予定している。それに先立つプレイベントも多数行った。今後のプレイベントの映画上映会では、地域の方々にも来ていただき、体験談や助言をいただきながら進めたい。折々に情報も流していくつもりである。

#### ■委員

- ・生涯学習論を専門に研究し、中でもコミュニティ活動やボランティア活動を通して市民がどういふふうにも自ら高まり、その結果がまたボランティア活動にはね返っていくのか、学びと市民活動、ボランティア活動が相乗効果で発展するというイメージを持ちながら調査研究をしている。
- ・「独歩の森」という武蔵野の雑木林を保全する緑ボランティア団体、武蔵野の森を育てる会という活動をしている。この活動には大学生の参加もあり世代間交流をしながら行っている。
- ・市役所7階の市民協働サロンを運営していた中間支援組織の理事をしていたため、計画の策定委員をしていた。
- ・武蔵野プレイス3階市民活動フロアの運営協議会の委員、西部コミュニティセンターの運営委員と監事をしている。武蔵野市での市民活動の経験を生かしながら今回の委員会にも貢献していきたい。

#### ■委員

- ・ひまわりママというNPO法人に所属している。プレーパーク（境冒険遊び場公園、境3丁目）の立ち上げにも少し関わったが、運営など現在は関わっていない。青少協の活動もしている。一市民として意見を言わせていただきたい。

#### ■委員

- ・「NPO活動促進基本計画（平成19年度から23年度）」の策定に、委員として参加した。
- ・市民活動というのは市民自らが市民の力でやっていくということが大事。東日本大震災以降、市民活動が積極的に問われて一生懸命さまざまな活動がなされているが時間がたつと忘れられてしまうので、市民の力を継続的、充足的につないでいくことが必要だろう。
- ・「まかない種は芽が出ない、植えない苗木は育たない」という考えを持っている。枯れるものも育つものもあるだろうし、手入れ次第でどういふふうにもなっていく。一生懸命植えていく、とにかく種をまくという中で、ダメになるものがあるとしても市民活動が育っていく。そのような視点を施策の中に入れていきたい。

- ・今回は武蔵野市民社会福祉協議会の副会長という立場で参加している。これまでボランティアセンター武蔵野の運営委員長など、ボランティア活動等を通して市民活動を見てきたことを生かしたい。

#### ■委員

- ・PTAが終わってからずっと地域のさまざまな組織に関わっている。「人が好き」なので地域に出ていくのだと思う。地域活動により知り合いが増え、地域が変わっていく様子を見ると、地域活動をしてよかったと感じる。
- ・後輩を育てること、自分が身を引く時期を考えながらこれから活動していきたい。学びながら皆さんに一生懸命ついてきたい。

#### ■委員

- ・公募により委員となった。
- ・小学生と中学生の子どもがいる。東日本大震災の時にPTAの役員だった。震災の時のさまざまな問題への意識から地域活動に携わるようになった。コミセン運営委員、防災関連のほか、市民社協の地域福祉ファシリテーターの養成講座にも参加した。町の問題や地域での連携について常々考えてきた。
- ・未来を担う子育て世代がこの吉祥寺に住みたい町か、住み続けられる町かという視点で考えて、自分たちや子どもたちが、この町で楽しく暮らしていけるのかということを前提に、皆さんと一緒に考えていきたい。とても楽しみにしている。

#### ■委員

- ・武蔵野プレイスの市民活動フロアを担当している。現場で中間支援組織として多くの団体の意見等を聞きながら、武蔵野市の市民活動がより活発になり充実するように、共有と協働という部分を重視しながら、中間支援組織としてあるべき姿について日々考えている。

#### ■委員

- ・市民活動推進課長となって3年目。コミュニティ、文化施設、市民活動と三分野を担当している。
- ・3つの問題意識をもっている。1つ目は、武蔵野プレイスの力をさらに引き出していくこと。同時に、武蔵野プレイスとボランティアセンター武蔵野と行政の三者の役割分担を整理し、武蔵野の市民活動がうまく回るようにしたいと考えている。2つ目はコミュニティ。これからのコミュニティに向けた「地域フォーラム」という提案と市民活動やNPO活動からの視点でどのように絡んでいけばよいかを見出したい。大学のボランティアの動きはここ数年で急速に伸びているので、若い力が地域や市民活動に入ってきて

ほしいと思う。3つ目は最後が担い手の問題。担い手の裾野を広げていく必要があるが、これが不十分である。新しい世代に働きかけるようなアイデアや仕掛けが委員会の議論から生まれると良いと思う。

#### (4) 事務局紹介

－事務局の自己紹介

#### (5) 正副委員長選出

－委員長に田中委員を互選で選出

－副委員長に竹内委員を委員長が指名

## 2 議事

### (1) 委員会の運営について

－事務局より資料3について説明

(質疑なく委員により同意)

### (2) 武蔵野市の市民活動推進施策について

－北原委員より資料4から7について説明

(質疑)

#### ■委員長

- ・資料6のアウトカム指標は平成26年度の数値だが、計画期間の変化は把握できるか。アウトカム指標の達成状況をもう少しきっちりと見るためには、経年の推移が分かると良い。

#### ■事務局

- ・現計画策定後の平成24年度以降は同じ形式で把握している。

#### ■副委員長

- ・「アウトカム」と「アウトプット」という言葉の区別、意味を確認したい。

#### ■委員

- ・「アウトプット」というのは出力という意味で、事業を実施してどれくらい、その事業の具体的な実績があったかというものである。
- ・「アウトカム」は、計画の目標（市民による公益的活動が活性化し、団体相互との連携や

協働が実現し、すべての団体・組織が課題を解決する) に対してどれだけの質的な効果があったかというもので、7つの指標を設定した。

- ・事業の効果があったのかを見たいが、指標設定は非常に難しい。

#### ■委員長

- ・「アウトプット」は行政がどれだけ事業を提供したか、供給したか。「アウトカム」はその結果市民側とか社会の側でどういう効果が生まれたか、というものである。

#### ■副委員長

- ・「アウトカム」は、事業の受け手にどう影響があったのか、事業の受け手がどのようにとらえたかというものなのか。

#### ■委員長

- ・事業実施とその結果の因果関係を分析しないと分からないものだが、計画評価としての指標をとって判断しようということで良いか。

#### ■委員

- ・この指標が妥当かどうか、論議があると思う。改善案などご意見をいただけるとよい。
- ・平成24年の計画策定時には、進捗管理の仕組みや指標設定については今後の検討課題とされた。ただ、「アウトプット」及び「アウトカム」指標を設定することは決められている。

#### ■副委員長

- ・「相談件数」は、アウトプット指標の項目に入っているが、どれだけアクセスしてくれたかというふうに考えればアウトカムとも言うことができる。

#### ■委員長

- ・窓口が開いている時間をどれぐらいにしたかとか、相談員を何人充てたとか、それだと完全にアウトプットになるが、実際に相談に来たのは確かにアウトカム近いと言える。
- ・指標の見直しや修正は今後あり得るのか。

#### ■委員

- ・指標の見直しや修正はあり得る。市民活動をしている人にとって、分かりやすく計画の進み具合を実感できる指標が理想である。

### (3) 武蔵野プレイスの取り組み

ー坂本委員より資料8から9について説明

(質疑)

#### ■委員

- ・武蔵野プレイスでの相談は経年で見るとどのような状況か。

#### ■委員

- ・相談事業は、件数は若干増えているが、まだ団体に知られていない。成熟した団体は質問項目がないのかもしれない。武蔵野プレイス市民活動フロア懇談会の委員からは、質問の具体例を明示するべきなど意見をもらっている。今後相談事業のPRを進めたい。

#### ■副委員長

- ・効果の測定は難しい。件数だけでは測れない。大学のボランティア団体は十数人で始めたものが現在は400人ほどに育った。武蔵野プレイスの相談窓口でいろいろなアドバイスをもらったことが大きいのだが、そういう部分が測れると良いと思う。

#### ■委員長

- ・計画は、数値目標で測る傾向があるが、質的な部分を少し加味できると良い。

#### ■副委員長

- ・質的な部分を数値化するならば、どれぐらい役に立ったかなどを指標にして効果を測ることは可能だと思う。

#### ■委員

- ・コミセンの窓口を担当していた時期がある。若い世代や図書館利用者との相互交流等を武蔵野プレイスに期待していたが、プレイスの具体的な情報がコミセンまで届かない。せいぜい市報レベルの情報である。今回の事業説明で初めて目にしたものもある。
- ・コミセンでは多様な団体が活動している。プレイス登録団体と重なっている団体が多いのではないか。武蔵野プレイスの特色やプレイス登録団体に関する情報など、住民としてコミセンの中にも気を付けていないと情報が入って来ない実感がある。

#### ■委員

- ・登録団体の情報は、アナログ的には武蔵野プレイスの3階のフロアに団体のファイルがあり、活動内容や連絡先が分かるようになっている。デジタル的な団体紹介は、武蔵野プレイスのホームページからNPO法（特定非営利活動促進法）の分類により検索する

ことができ、各団体のホームページにリンクしている。

- ・武蔵野プレイスからコミセンに向けて積極的にPRしなければならないと認識した。

#### ■委員

- ・市民活動団体についてあまり興味のない住民に対して、コミセンが介して紹介できるような分かりやすい情報がない。
- ・コミセンと武蔵野プレイスの関係、市民活動推進課と武蔵野プレイスの関係の中で住民に直接働きかけられるものがあるのだろうか。

#### ■委員

- ・現在は、コミセンに出向いて住民向けの説明会をするなどの場はない。吉祥寺南町地域からは説明会や事業開催の要望などがある。今後は、市の東側でも実施するようになりたい。

#### ■委員

- ・武蔵野プレイスの出前講座を、コミセンを会場に実施できるということか。

#### ■委員

- ・コミセンが、各協議会による独自の許可制なので、許可をもらえばできる。コミセンによりニーズは異なるだろうから、コミセンへのヒアリング等によりニーズをきちんと把握しなければならない。

#### ■委員

- ・(公財)武蔵野文化事業団からは、平成28年度に武蔵野市民文化会館が休館になる関係で、コンサートなど文化振興事業を外に出て、出前でやりたいという提案がある。コミュニティのすべての協議会(16協議会)が集まる会議の場でそれについて説明し、やりたいところは手を挙げてくださいと声かけをした。武蔵野プレイスの事業についても、かなりのところで手が挙がる可能性がある。プレイスがコミセンを会場にして事業を行うことも可能だが、同じ市民活動の担い手として、コミセンと共催的に実施する可能性はあるのではないか。

#### ■委員

- ・(公財)武蔵野生涯学習振興事業団としては、スポーツ部門がコミセンを会場に事業を実施している。武蔵野プレイスは、職員体制の問題から、各方面で事業展開をする余力がない状況である。やるべきことだという認識は非常にあるので、実施できるようにしたい。

#### ■委員

- ・武蔵野プレイス側からの発信だけでなく、武蔵野プレイスの提案を各コミセンが検討して自主的にやりたいという声が上がってくるようなものが理想的ではないだろうか。

#### ■委員

- ・武蔵野プレイス登録団体へのアンケート結果（資料9）を見て、プレイス登録団体にコミセンがかなり使われているということに驚いた。
- ・プレイスが何かをするというのではなくて、各団体がもうちょっとコミセンと連携がとれるような形ができてくると、コミセンも情報をもらえるし、できることがあれば一緒に連携して共催でいろんなこともできると思う。

#### ■委員長

- ・市民活動促進政策とコミュニティ政策がもう少し融合すればよいということであろう。

#### ■委員

- ・市からコミセンへの情報提供は、市報が出る数日前に大量のチラシなどが配布されている。1種類5枚までに制限しているが量は多い。
- ・情報量が多すぎるために、かえって市民に伝わらないことを懸念している。

#### ■委員

- ・コミセン側から見ても非常に多いと感じている。
- ・欲しい情報、必要な方法をうまく手に入れられるということも、コミセンと行政等が連携する際に重要な検討すべきポイントだろう。

#### ■委員長

- ・社会教育関係団体については団体名・活動概要・連絡先等をまとめた「サークルガイド」という冊子がある。武蔵野プレイスで活動する団体については、そのような冊子は作成しないのか。

#### ■委員

- ・アナログの団体情報提供ファイルは団体ごとに1冊ずつ、合計300近くある。団体名と活動概要をまとめた冊子はないが、分野ごとの団体名は分かるようになっている。

#### ■委員長

- ・コミセンが団体情報に接することができるにつながりきっかけになる。コミセンの連合

組織（コミュニティ研究連絡会）と武蔵野プレイスの情報交換や関係がもう少しあっても良いのではないか。

#### ■委員

- ・コミセンや地域が武蔵野プレイスに求めているものを確認したい。コミセンが自身で団体情報を探したいのか、やりたい事業やつながりたい団体に関する希望を伝えて適切な団体などを紹介してもらいたいのか。それともまったく別のものか。

#### ■委員

- ・団体と連携するような企画を立てること自体が難しい。
- ・コミセンに関係している大多数の人が、武蔵野プレイス登録団体に関する情報を知り、連携できるようなきっかけが必要だと思う。武蔵野プレイスから遠い地域は情報が不足しがちである。

#### ■委員長

- ・この委員会を通してアイデアを出していくようにする。

#### ■委員

- ・市の西側に住んでいるので、東側の地域のコミセンや施設については疎く、交流などが難しいと感じる。武蔵野プレイスに関するだけでなく、東西の地域差はあるだろう。

#### ■委員長

- ・これから、離れた地域をつなぐアイデアが出てくると良いだろう。

#### ■委員

- ・市役所7階に市民協働サロンがあったときは、市役所を訪ねたついでに情報を得ることができたが、武蔵野プレイスまで行く機会があまりないので現在は難しくなっている。

#### ■委員長

- ・現在も、市役所7階に情報コーナーがありチラシは掲示しているが、スタッフがいないため相談対応がないようで訪ねにくい。居場所になっていない。
- ・武蔵野プレイスに関する活発な意見交換は、プレイスに対する期待の大きさの表れである。今後、プレイスの活かし方への意見がさらに出てくると良いと考える。

### （４）武蔵野市の課題と委員会の進め方

ー北原委員より資料10から11について説明

(質疑)

■副委員長

- ・学生たちのまさに自律・自立した活動は大学でも把握しきれないほどさまざまにあり、大学の財産だといえる。そのような活動については、大学による管理は不要だが、何が起きているかということはある程度知っておくことは非常に大事だと考える。市についても同様に、武蔵野プレイスに関係していなくても広い世界とつながっている人や活動があるはずで、それは「地域の力」といえるだろう。それを把握できると、武蔵野市の市民活動の力、市民の力を立体的に分かるようになるだろう。
- ・なお、大学では、ボランティア支援センター登録団体でなくても、学生の団体が地域と連携して何か活動している場合は、大学に報告してほしいと情報提供を呼びかけている。
- ・7月には成蹊大学を会場に、「TAMACOM (タマコム)」というショートプレゼン (スピーチ) 大会のある交流会を行った。市や武蔵野プレイスから離れたところであっても、活動している人同士が知り合いになれるような場で、コミュニケーションをとり、影響し合えるというのが大事ではないか。

■委員

- ・タマコムは、三鷹商工会と武蔵野商工会議所が主催する、民・学・産・公の異業種交流会。7月に第4回目を成蹊大学で開催した。三鷹市も武蔵野市も、市職員が参加していた。ビジネス関係者だけでなく、NPO関係者も多数出席していた。様々な職種・業種の参加がある。大学生も参加していた。

■委員

- ・武蔵野プレイスやボランティアセンターなど、そこで活動している団体が一堂に会して意見交換などができる場があっても良いのではないか。

■委員

- ・以前はボラセンでもボランティア団体懇談会を行っていた。

■委員

- ・人が交わるような会は多数あったほうが良いだろう。
- ・「武蔵野市市民活動かわら版」でインタビューされている方々によるミーティングなど、ある機会が集まった方々をつなげていくところから始まるような、展開させていける仕掛けがあったら面白いだろう。

#### ■委員

- ・団体活動を継続していく上で一番問題になるのは資金である。市のNPO補助金を受けながら活動を続けて、力をつけ育っている団体は多数ある。団体が育ち、それで市との連携ができるようになって、力がついてくると事業を受託できるようになる。
- ・タマコムは、基本的にはニュービジネスとNPOが実行財源、自主財源を求めたり、自分で稼ぎ出すことを目的としている。三鷹と武蔵野の商工会議所がNPO等とそれを支援しようとする人たちをつなぐ場を設定したもの。鎌倉では、クラウドファンディングで資金を調達しようという考え方を広めようと「カマコンバレー」が行われている。どちらも、NPOなどの活動を市民がスポンサーになり育てようという土壌のもとにある。
- ・NPO等団体の維持・発展と活動の展開していくためには、行政の補助金や活動者自身の出資に頼るのではない、外部のスポンサーやさまざまなアイデアによる自主財源の確保が非常に重要である。市民の側にも、団体を支援し育てるという意識が必要。

#### ■委員長

- ・総括すると、資料10の課題（2）や、民間資金の活用方法についての議論であった。
- ・資料11（計画見直しスケジュール素案）記載の「市民意識調査等の分析結果」とはどのようなものか。

#### ■委員

- ・今回の計画見直しにあたっては、そのための市民意識調査等は実施せず、「第5期長期計画調整計画」策定のために平成26年度に実施した「市民意識調査」と、毎年実施している「市政アンケート調査」、平成24年度に実施した「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査」の結果を基礎データとして利用したい。

#### ■委員

- ・現計画に記載されている「コーディネーター」について、内容・役割・育成などについてしっかりと議論すべきだと考える。

#### ■委員

- ・市民活動、地域コミュニティ、福祉などさまざまな分野で「コーディネーター」の必要性などがうたわれている。「コーディネーター」の議論は必要である。

#### （5）意見交換

ー計画見直しに向けたフリーディスカッション

#### ■委員

- ・さまざまな市民活動や学校その他機関との調整窓口は、市役所では市民活動推進課ということでよいか。

#### ■委員

- ・武蔵野プレイス、ボランティアセンター武蔵野と連携しつつ、市民活動推進課が行政としてのコーディネーターを務める。

#### ■委員長

- ・市民活動促進の政策を進めるには、すべての行政職員が市民活動や地域に近い感覚を持ち市民と行政をつなぐ意識を持ってほしい。コミセンには自主三原則があるが、コミセンや市民活動団体の活動に参加して、住民と一緒に活動するなどということも考えられる。

#### ■委員

- ・コミュニティの自主三原則にとらわれ過ぎず、行政もコミュニティもお互いに対等な立場で物事にあたる時代になっているといえる。

#### ■委員長

- ・コミュニティと行政をつなぐために、職員が地域の中で市民と直接触れ合う機会を数多く設定すべきではないか。そこから、行政全体が市民活動を支援する体質になっていくきっかけになると考える。

#### ■委員

- ・資料7にあるように、武蔵野市は、各課が分野別・テーマ別に市民活動団体等と協働的な取り組みや連携を実施している。全体が網羅されず、総合化されていないともいえるが、ある程度の蓄積はある。

#### ■委員長

- ・「委託」や「補助・助成」という形式で行政がお金を出すというだけでなく、共に何かをつくる・実施するという機会を設けてほしい。同じ空間と時間を共有することで、どんな市民がいるのか、市民は何を考えているのかなどが理解しやすくなるのではないか。

#### ■副委員長

- ・大学ボラセンでも、教職員と学生と、卒業生も含めて一緒にやる、学生の提案に教職員も参加するような関係をつくろうとしている。一緒に活動することで、学生からの信頼

感が増してくる。

#### ■委員

- ・実績のあるNPO法人にかかわる人が多いために、地域の団体等において人材が育たない、人材がNPO法人に流れたなどということはあるか。

#### ■委員

- ・我々の法人で活動した後、ステップアップしていく人はいる。本来の仕事にしたいと就職した人や、空き時間のボランティア的活動でなく、もっと働けるのではないかと自信を持った人もいる。
- ・法人の活動が盛んになり組織が大きくなったことで、設立当初の考えが揺らぐことや、多くの依頼に対応していると自分たちの行いたい活動がおろそかになってしまうこともある。メンバーの考え方や得意分野の差異があるため、各事業への人員の配分や、雇用形態の変化への対応、専門職の雇用、就業規則の作成など、人事管理など組織運営に係る専門的な業務が難しい部分である。

#### ■委員

- ・幼稚園・小学校と子どもの成長に合わせて母親が関わるコミュニティの形態は変化する。PTA活動は、「この場所でお世話になっているから何か手伝えることを」という地域に対するボランティア精神でなされている。
- ・子どもが中学生ぐらいになると、教育費などの負担も増え、地域に奉仕するよりも働くことを優先しがちになる。地元で、短時間で働けると良いのだがそのような場がなく、外に働きに出てしまう。地域活動の担い手になり得る人々がみんな地域から出てしまっているという状況である。
- ・コーディネーターがいて、子育て世代を取り込めるプラットフォームのようなものがないか。何か活動したいと思ったら、そこに相談に行くイメージ。
- ・子育て世代の人脈や能力をうまく結び付け、地域で有償で活動することが可能であれば、地域の活性化や子どもを含めた世代間交流が可能になるのではないか。また、母親や家族の活動の様子を見ることで、子どもも市のいろいろな行事に参加するだろう。
- ・行政内部で連携してコーディネーターの役割を果たせるのが一番良いが、市民により近い部分にいる人々がコーディネーターになり、活動場所を欲している子育て世代などの若い世代と、彼らが活躍できる場を結び付けられるような仕組みが必要だと思う。

#### ■委員

- ・動く場が欲しいという市民は相当いるのか。

#### ■委員

- ・相当は少ないと思われるが、いたとしても、それを考えたり発言している時間がないというのが現状である。子どもが小学校在学中に、働きたい・活動したいという人がアプローチできる場があると、子どもが成長したあとのイメージをつかみやすい。
- ・武蔵野プレイスで実施している行事などは、子どもにぜひ行かせたいと思えるものが多い。PTAなどの組織に対して情報を発信し、連携していくことも有効ではないか。

#### ■委員長

- ・けやきコミュニティ協議会は地域においてそのような機能を有していると思われる。
- ・地域ごとあるいは地域を超えてプラットフォーム機能を持つ場があると良い。
- ・できるときにできる人が活躍し、協力し合いながら地域を盛り上げるということが可能か、どのようにその仕組みが作れるかどうか。

#### ■委員

- ・市民活動の担い手は、PTA、青少協、コミュニティ協議会、福祉の会という流れで活動の場を移して成長していく感があるが、入り口であるPTAから次の段階に移る方がおらず、担い手が減っているという印象がある。NPO団体で活動しているために青少協など地域活動に人が流れなくなったということと両方あるのかと感じた。

#### ■委員

- ・PTAの役員は毎年変わることになかなか地域に根づかないというが、自分はPTAで活動して以降青少協やコミュニティ協議会に参加してきた。今年も、若い人もコミュニティ協議会に入っている。

#### ■委員

- ・勧誘する側が意識的に若い世代に声をかけている成果だろうか。

#### ■委員

- ・上の世代から言われるとプレッシャーがかかる。
- ・「1年だけなら」と参加する場合もあるので本来の意味で自主的に参加しているとは言えないのではないか。
- ・吉祥寺南町地域の場合、働いている人がほとんどなので、PTA役員は平等に担うことになっている。「やれる時にやる」という手挙げ方式になっているため、地域に入っていくことにはつながらない。それでも、PTAは地域とのつながりが生まれる機会であるので、そこでつながったときに次の方向性を示すことができれば、地域とのつながりや担い手になることなどを前向きにとらえることができるのではないか。

#### ■委員長

- ・公民館で保育の仕組みが整っている地域は、PTA活動以前の段階での母親同士や地域の人、高齢者などとのつながりができやすく、PTA活動になってからもそれが生かされ自信を持って活動されている。
- ・若い世代が、PTAで子どもの成長という観点からいろいろ見ていると町の問題も見えてきて、小平とか国立とか国分寺とか西東京などでは、PTA活動が終わった後で市民活動に入っていくということもある。武蔵野市の場合には、「母と子の教室」などをもっと生かしていくとPTAにつながっていく可能性もあるのではないかな。

#### ■委員

- ・地域活動の担い手は、純粋な「ボランティア」では現れにくいのではないかと考える。

#### ■委員長

- ・専業主婦が少なくなっている現状で、PTA活動から地域活動へという仕組みがどう転換できるかは課題になる。

#### ■副委員長

- ・コミュニティビジネスなど、起業している方たちの話などは参考になるか。

#### ■委員

- ・子育て世代の人たちにとっては、自分なら何ができるか、と考える参考になるだろう。

#### ■委員

- ・地域活動で発見したことを仕事や起業に展開していく人もいる。
- ・担い手については大切な問題だと考えるので、今後の委員会で議論していきたい。

### 3 事務連絡

- ・第2回委員会は12月21日（月）午前10時から開催する。

### 4 閉会

以上